

[13] 延岡市小体連

(学校数27校 6224名)

I 年間事業

	事業名	事業内容	会場
5月7日(月)	第1回理事会	○ 会計予算審議 ○ 活動計画及び事業計画審議 ○ 役員選出	旭小
6月8日(金)	第2回理事会	○ 器械運動教室内容審議 ○ 陸上教室の概要説明	旭小
7月24日(火)	器械教室運動前日準備	○ 器械運動教室会場設営 ○ 指導方法確認	東小
7月25日(水)	平成30年度延岡市器械運動教室		東小
8月21日(火)	第3回理事会	○ 陸上教室について審議 ○ 器械運動教室反省 ○ 授業研究会事前研	旭小
10月17日(水)	陸上教室前日準備	○ 会場設営 ○ 役員打合せ	西階陸上競技場
10月18日(木)	平成30年度延岡市陸上教室	○ 100m、50mH、走り幅跳び、走り高跳び、ソフトボール投げ、800・1000m、4×100mリレー ○ 模範走(成迫健児氏、清山ちさと氏)	西階陸上競技場
11月22日(木)	第4回理事会	○ 研究授業 走・跳の運動 4年生 ○ 授業研究会	北川小
2月1日(金)	第5回理事会	○ ジャベリックスローについて	旭小
3月1日(金)	第6回理事会	○ 年間事業反省	旭小

II 事業部のあゆみ

1 器械運動教室

- (1) 大会名 平成30年度延岡市器械運動教室
- (2) 期 日 平成30年7月25日(水)
- (3) 会 場 延岡市立東小学校
- (4) 参加者 延岡市立の小学校に通う3・4年生の希望児童 105名
- (5) 内 容 延岡商業高校生徒及びさくら体操クラブによる模範演技
マット運動(前転・後転) 跳び箱(開脚跳び)
- (6) 実施方法 ○ 児童をA, B2つのグループに分ける。 ※ 熱中症対策の為計画変更
(A・Bグループ: マット→跳び箱)
○ 各グループを10班に分け, 少人数での実技指導を行う
- (7) 日 程 ○ 開講式 9:00
○ 模範演技 9:15
○ 実技指導 9:55
○ 閉講式終了 12:00
- (8) 表 彰 参加児童全員に, 修了証を配付する

(9) 反省 (成果と課題)

- 屋内で跳び箱、屋外で鉄棒の指導を予定していたが、熱中症の恐れがあったため、屋内での跳び箱・マットの指導に変更した。結果、時間の短縮にもつながり、「水分補給や休憩時間に余裕があった」「早めに切り上げたのは賢明だった」といった回答があった。
- 74%の児童が「器械運動が好きになった」と回答し、90%の児童が「楽しかった」と回答していた。その理由として、「先生がほめてくれた」「みんながアドバイスしてくれた」「できなかったことができるようになった」ことを多く挙げていて、体力・技術の向上以外でも友達作りや新しい自分の発見など、この教室を開く意義があったと思う。
- ここ数年言われている熱中症対策が大きな課題となる。時期は適切か、設備は充分かなど、今後も議論を重ねていきたい。また、参加児童のマナーも反省で挙げた。安全な運営のためにも、指導者全体で児童管理を徹底していきたい。

2 陸上教室

- (1) 大会名 平成30年度延岡市小学校陸上教室「オリンピックゲームズ」
- (2) 期 日 平成30年10月18日(木)
- (3) 会 場 西階陸上競技場
- (4) 参加者 延岡市立の小学校に通う6年生児童(一部5年生児童を含む)
- (5) 種 目
 - 100m(選抜・一般) ○ 50mハードル(選抜)
 - 800m(選抜女子) ○ 1000m(選抜男子)
 - 走り幅跳び(選抜男子・女子) ○ 走り高跳び(選抜男子・女子)
 - ソフトボール投げ(選抜男子・女子)
 - 4×100mリレー(選抜男子・女子)
- (6) 実施方法
 - 宮崎県小学校体育連盟標準記録認定要領及び、陸上競技ルールブックに則って行い、一部ローカルルールを採用する。
 - 延岡市の小学校27校を集め、1日開催で行う。
- (7) 表 彰 各種目の上位3名を表彰する。
- (8) 反省(成果と課題)
 - 延岡市陸協の協力もあり、素晴らしい競技場で活動できたことや電気時計による記録の測定など陸上競技の醍醐味を味わい、多くの学校の児童と競い合えたことがよい刺激となった。
 - トップアスリートによる模範走やポイント指導により陸上競技に関する関心を高めることができた。
 - 実施時期、バスの運行、限られた種目のみの出場(活動時間が短い)等の課題も挙げられており、小体連で検討していく必要がある。

3 体力向上の取組

- (1) 期 日 平成30年12月～2月
- (2) 対 象 延岡市内の小学校に通う児童
- (3) 内 容 なわとび運動(8の字跳び、二重跳び)
- (4) 取組内容
 - 延岡市小体連なわとびカードの活用
 - 延岡市なわとび大会の実施
- (5) 成果と今後の見通し
 - 「延岡市なわとび大会」を行い、校内及び学校間で競い合いながら体力を高めている。延岡市全体でなわとび運動に取り組んで6年目となるが、活動が活発になり、年々記録も伸び、体力の向上につながっていると言える。
 - しかし、体づくり運動における内容が縄跳びを使った運動に偏りが見られる学校もあり、実施については、今後検討していく必要がある。

Ⅲ 研究部の歩み

1 本年度の研究主題

健やかな心と体を育み、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方
～探求的・協働的な学びのある「陸上運動」の指導の工夫を通して～

2 研究の基本的な考え方～探求的・協働的な学びのある体育科学習とは

延岡市小体連では、探求的・協働的な学習を以下のように捉えている。

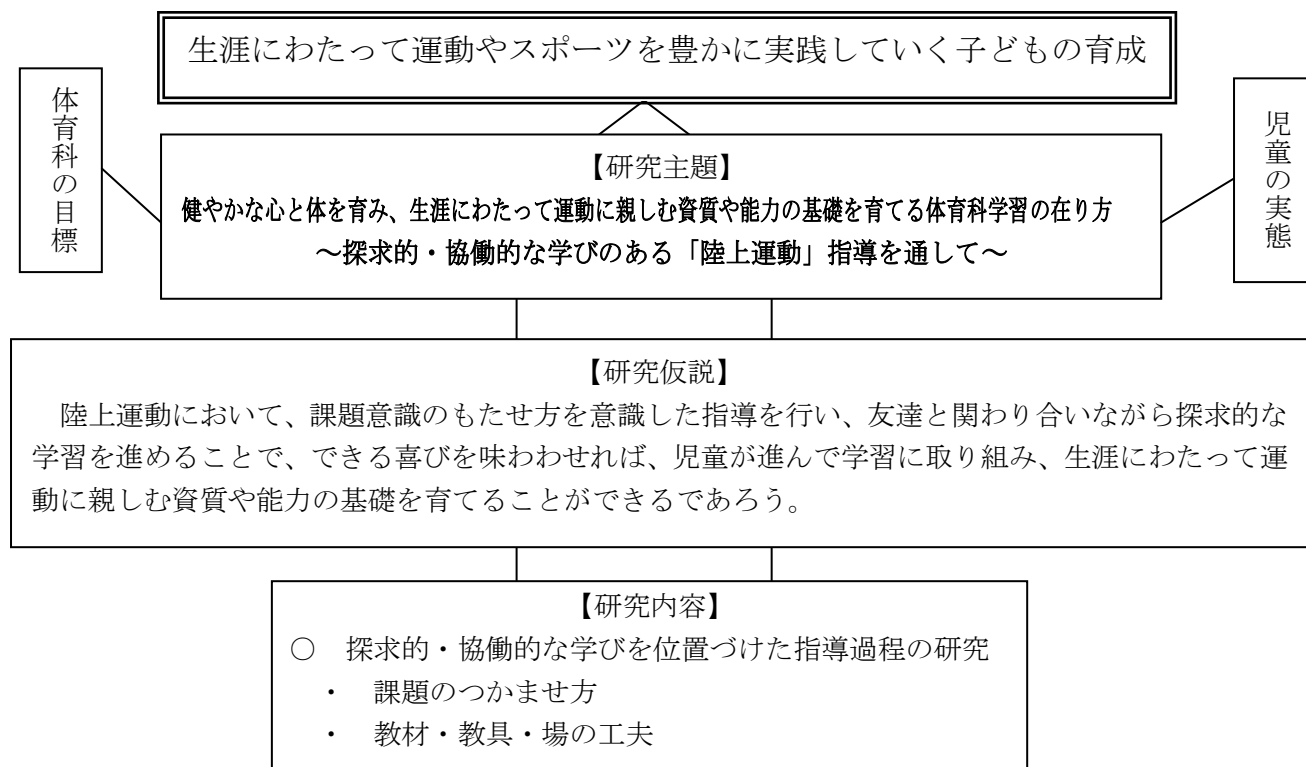
○ 探求的な学習とは

運動やスポーツの楽しさや健康の意味及びそれらの価値をふまえ、運動や健康についての自らの課題に気付き、その課題解決に向けて試行錯誤を繰り返しながら学びを進めること

○ 協働的な学習とは

運動・スポーツや健康について、自らの課題の解決に向けて児童同士、児童と教師、さらに児童と知識がかかわり合いながら、話し合ったり、教え合ったりして学びを深めていくこと

3 研究の構想（研究の仮説、研究内容）



4 研究の実際

平成30年11月22日（木）に授業実践を行い、研究仮説の検証を行った。

領域	単元名	学年	授業者
走・跳の運動	小型ハードル走	4 学年	北川小学校 永野 佳太 教諭

【教材分析】

走・跳の運動は、走る・跳ぶなどについて、友達と競い合う楽しさや調子よく走ったり跳んだりする心地よさを味わうことができ、また体を巧みに操作しながら走る、跳ぶなど様々な動きを身に付けることを含んでいる運動である。また、ハードリングの技術を獲得することによって、どの子も記録を縮めることができるため、短距離走とは異なり、走力のみでは競争の結果が決まらないことも学習意欲につながると考えられ

る。さらに、友達の姿勢やリズムなど観察しやすいため、互いに教え合いながら技能を高めていくことが可能な運動である。そこで、以下のように単元を計画し、3時間目を研究授業として設定した。

【単元計画】

時間	1	2	3 (本時)	4	5
指導内容 (学習の重点)	知・技・思・判・表	課題解決のための活動の選択①	考えたことを友達に伝える②	自己に合ったリズムで走り越える③	自己に合ったリズムで走り越える④
学・人	きまりを守り、励まし合う⑤				
学習活動	①準備運動 ②人間ステップ (ペア) ・一人が木の字に寝て、もう一人が足と腕を越えて回る。 ・長座の足を越える。 ③ケン・ケン・バ (班) ・前の児童が終わったらスタート。 ・前の児童の途中でスタート。 ④長座越え折り返しリレー ・2班でチーム。 ・長座の足を越えて走る。帰りはそのまま走る。 ・長座の足の向きをバラバラにする。 ・足の向きを話し合う。	・両足ジャンプ・片足ステップ ⑤ハードル走 (H1個) ・スタートから11m地点に置く。 ⑥折り返しリレー ・行きだけハードルを越える。 ・バトンタッチやゴールの仕方は前時と同様。 ⑦折り返しリレー (H2個) ・2台目のハードルを置く位置を話し合う。	⑧ミニハードルで感覚作り運動。 ・ミニハードル間を2回足踏み (トントン)。 ・横向きジャンプ (左右)。 ・横向きでトントン (左右)。 ⑨折り返しリレー (H2個) ・2台目を置く位置を話し合いながら練習する。 ・前時と同じルールでリレーを行う。 ⑩折り返しリレー (H3個) ・2台目と3台目の置く位置を話し合って練習する。 ・リレーを行ったあと、もう一度話し合い練習する。	⑪準備運動 ⑫ハードル走 (40m) ・個人でどこを走るか選ぶ。 ⑬4m間隔の低ハードル3台。 ⑭4m間隔のミニハードル3台。 ⑮5m間隔の低ハードル3台。 ⑯5m間隔のミニハードル3台。 ⑰6m間隔の低ハードル3台。 ⑱6m間隔のミニハードル3台。 ⑲10秒間走 ・スタート地点から1m離れるごとに加算されていくハードル走。 ・低ハードルで行った児童は2倍加算される。	⑳ハードル走 (40m) ・個人でどこを走るか選ぶ。 (場の設定は前時と同様) ㉑10秒間走 ・前時と同じルールで行う。 ・本時の最後に班で点数を合計し、班で競争する。
			①片付け ②振り返り		

【考察】

ハードルを置く位置を自分たちで考えるという活動を設定することで、「早くゴールするためにはどんな間隔でハードルを置いたら良いのだろう。」という課題意識をもたせていった。運動経験から得られた感覚を根拠に調子よく跳ぶには等間隔でハードルを置いたほうが良いと判断した児童が多数おり、インターバルをそろえることで同じような歩数やリズムで走ることができることに自然に気付かせることもできた。

また、場の工夫として、1メートル間隔の直線を12本ほど引き、ハードルを置く位置を確かめられるようにしたことも、児童に「等間隔に置くことで調子よく跳べる」という考えを引き出す一助となった。陸上運動は、一般的に個人種目として取り組まれる運動だが、班対抗の折り返しハードルリレーを設定したことで「動きを見合う」、「作戦を考える」等の活動が生まれ、協働的な学習につながっていき、運動の楽しさを感じられる授業となった。



5 研究の成果と課題

(1) 成果

- 課題のつかませ方が工夫されており、児童が主体的に学習に取り組むことができた。
- 競争型の特性を活かすことで、話し合いが活発に行われ、協働的な学びも展開された。
- 場や教具が工夫されており、全ての児童が運動の楽しさに触れることができ、意欲的に学習に取り組むことができていた。

(2) 課題

- 今回の授業では、「考えたことを友達に伝える」ことを評価することにしていたが、活動をしている中で個人を評価することの難しさを感じた。今後評価の行い方についても研究を広げていきたい。
- 技能については、「何を」「どのように」「どのタイミングで」指導するのかを整理し、指導を行っていく必要がある。